



GUNMA KUSATSU MUSIC SOCIETY FOUNDATION

The 46th KUSATSU INTERNATIONAL SUMMER MUSIC ACADEMY & FESTIVAL

令和8年2月18日
公益財団法人 群馬草津国際音楽協会
草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル実行委員会
実行委員長 中澤 敬

草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル アーティスティック・アドバイザーの就任について

第31回(2010年)より第43回(2023年)まで、音楽監督を務めた西村朗の急逝後、前音楽顧問の吉松隆、現音楽顧問のオットー・ビーバの支えの基で音楽祭を開催して参りました。そしてこの度、世界三大音楽祭のひとつ、ルツェルン音楽祭(スイス)の芸術監督を25年務めたミハエル・ヘフリガー氏を、新たにアーティスティック・アドバイザーとして迎え入れます。2030年に50回の節目を迎えるに先立ち、組織体制を整え、歴史ある音楽祭のさらなる充実と、若手音楽家の育成、地元群馬県および日本国内の文化振興に寄与できる音楽祭として発展を目指します。

【アーティスティック・アドバイザー】

ミハエル・ヘフリガー (前ルツェルン音楽祭エグゼクティブ兼芸術監督)

※経歴詳細末尾

草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルは1980年、音楽監督・豊田耕児(在任1980-1989/ヴァイオリニスト)と実行委員長・遠山一行でスタートしました。歴代の音楽監督遠山一行(1990-2009年)、西村朗(2010-2023年/作曲家)と、音楽顧問として吉松隆(2024年/作曲家)、オットー・ビーバ(2025年/元ウィーン楽友協会アーカイヴ・ディレクター)の下、既に45年を超える歴史を積み重ねています。

50年、100年と続く音楽祭に成長させることを目標とし、アカデミー(マスタークラス)を主軸に、その講師陣が出演するフェスティバル(コンサート)をアカデミーの副産物として始まった音楽祭のマスタークラスでは、アマチュアもプロも分け隔てなく、年齢も問わずに学ぶ機会を提供しました。門下の垣根を越え、すべての人が、世界一流のアーティストから学ぶ機会を得られるようにという明確な目的があったからです。音楽家を志す音楽学校の学生は然り、音楽学校に進学前の若年層、そして社会人になり改めて学び直しをしたい人など、日常から離れ、どっぷり音楽三昧の2週間を過ごす、かけがえのない場所を求め、多くの受講生が集まりました。

この設立時の目的に賛同し、第4回からアカデミーの講師を務めてくださったのが、世界的テノール歌手のエルンスト・ヘフリガー（以下、父ヘフリガー）であり、この度アーティストック・アドバイザーに就任されるミヒャエル・ヘフリガー（以下、ヘフリガー）の父にあたります。草津という日本の土壌を愛し、日本の聴衆に愛親しまれながら、第25回（2004年）まで毎年音楽祭に参加されご指導くださった父ヘフリガーは、定員を超える多くの受講生を相手に、朝に夕にと個々の求めるものに合わせ指導された名教師でした。その功績は、草津町名誉町民として称えられ、今日も湯畑の石柵にも刻名されています。

一方のヘフリガーは、同時期（1986年）に25歳にして国際ダボス音楽祭（IDMF）の共同設立者となり、マネジメントのキャリアをスタートさせます。その後、1999年から2025年の26年間、世界三大音楽祭のひとつ、ルツェルン音楽祭の芸術監督兼エグゼクティブ・ディレクターに任命され、更にキャリアを築いてきました。在任中、クラウディオ・アバド、サー・サイモン・ラトルをはじめとする世界一流のアーティストを招聘してプログラムを企画する他、2003年にはクラウディオ・アバドとのルツェルン祝祭管弦楽団の設立、そしてピエール・ブーレーズとのルツェルン祝祭アカデミーの設立という2つの主要プロジェクトを主導し、更なるルツェルン音楽祭の発展に寄与しました。その後、ヘフリガーは、アニッシュ・カプーアと建築家の磯崎新とのコラボレーションによる「アーク・ノヴァ・プロジェクト」を発足します。このプロジェクトは、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けた東北地方の住民のために、移動式のコンサートホールを作り、コンサートを行うという革新的な社会プロジェクトでした。2013年には宮城県松島町にて「ルツェルン・フェスティバル アーク・ノヴァ松島 2013」（主催：松島実行委員会／アーク・ノヴァ実行委員会）が開催され、ヘフリガーはその際の立役者となりました。

このように、父ヘフリガーの尽力に支えられた当音楽祭と、ヘフリガーの率いるルツェルン音楽祭が、それぞれにアカデミックで且つアーティストックな音楽祭として発展してきたことは、偶然ではありながら運命を感じています。親子それぞれが持つ日本とのご縁も相まって、この度のヘフリガーのアーティストック・アドバイザー就任に繋がりました。

ヘフリガーは、草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルに新たな構想を掲げています。「Three Mountains Project」と呼ばれるこのプロジェクトは、高崎の「榛名」、草津の「白根」、軽井沢の「浅間」をイメージしています。長きにわたり草津だけで行われていた音楽祭の拠点を増やし、歴史ある音楽祭の取り組みを日本国内に留めず、世界に発信していくことを目指すものです。

「Three Mountains=3つの山」のコンセプト

・「草津」

草津音楽の森国際コンサートホールでは、これまでのように、滞在型参加を主軸とするアカデミーの開催と、室内楽コンサートの充実をはかり、温泉と音楽にどっぷり浸れる草津、そして、より魅力的な草津を目指します。

・「高崎」

高崎芸術劇場は、これまでも当音楽祭のプレコンサートの会場となっており、東京からのアクセスも便利なホールです。この利便性を活かし、群馬交響楽団の協力のもと、草津のホール規模では叶わないオーケストラ・コンサートの更なる充実を試みます。

・「軽井沢」

軽井沢大賀ホールでは、文化人が多く集まる地である特色を活かし、室内楽規模のコンサートの企画で新たなクラシックファンを魅了し、翌年には聴衆が音楽祭の中心地草津まで足を延ばすきっかけの場作りを目指します。

中長期的な目論見としては、この3拠点を点ではなく線で結び、各拠点の文化振興、新たな人の流れの構築を期待し、数年後には拠点を巡り数日に渡り音楽祭を楽しむ人の流れを作る事も狙いの1つです。

ヘフリガーのこれまでの経験と企画力に期待し、先人から継承されてきた45年の濃厚な歴史が更に充実した内容となり、群馬の地から世界に発信される当音楽祭の今後の成長をお楽しみいただけますと幸いです。

(連絡・問い合わせ先) 草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル実行委員会

○草津夏期国際音楽アカデミー事務局

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町14-3 和興ビル2F
電話 : 03-5790-5561 / Mail : info@kusa2.jp / HP : http://kusa2.jp/
担当 : 竹林 幸

○草津町事務局(草津町教育委員会内)

〒377-1792 群馬県吾妻郡草津町大字草津28番地
電話 : 0279-88-0005 / Mail : mako.kawamata@kusa2.jp
担当 : 川又 真子

公益財団法人 群馬草津国際音楽協会

〒377-1711

群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根国有林54林班地内

TEL: 0279-88-8118 / E-mail: admin@kusa2.jp

Michael Haefliger Biography (画像：Marco Borggreve)

1961年ベルリン生まれ。6歳からヴァイオリンとピアノを習い始め、1983年にニューヨークのジュリアード音楽院でヴァイオリンを修了。1999年にザンクトガレン大学でエグゼクティブMBAを取得。ハーバード・ビジネス・スクール卒業生。1980年代初頭にはヴァイオリニストとして、ルツェルン、インターラーケン、スポレートなどの音楽祭に出演していた。



1986年、Davos Festival - Young Artists in Concert を創設し1998年まで同音楽祭を指揮する傍ら、1996年から1998年までコレギウム・ノヴム・チューリッヒ (CNZ) の芸術監督を務める。1999年にはルツェルン音楽祭のエグゼクティブ・ディレクター兼芸術監督に就任。「40 Minutes」や「Piano-Offstage」といった多種多様なコンサート形式をプロデュースしながら音楽祭を発展させた他、「DEBU b g v T」 Concert Series」の企画や、ユース・オーケストラを活用したコンサート企画など、若手アーティストの育成に力を入れる。2003年にはクラウディオ・アバドと共にルツェルン祝祭管弦楽団を創設し、2004年にはピエール・ブーレーズと共にルツェルン祝祭アカデミーを設立。2025年現在、ラン・ラン国際音楽財団、UBS文化財団、ピエール・ブーレーズ財団、ダボス音楽祭財団、スイス音楽青少年コンクール財団の理事を務める。

【主な経歴】

- ・スイスの世界経済フォーラム財団から「Global Leader for Tomorrow (現 Young Global Leaders)」に選出される (2000年)。
- ・ルツェルン観光フォーラム観光賞、シェントラルシュヴァイツ文化賞、ニューヨーク・スイス協会賞、ルツェルン市名誉勲章、他受賞歴多数。
- ・スイス青少年音楽コンクール、UBS ヤング・アーティスト賞審査委員長。
- ・2011年、東日本大震災からの復興支援を目的に、建築家の磯崎新と彫刻家のアニッシュ・カプーア氏と共同して「アーク・ノヴァ プロジェクト」を開始 (企画制作：KAJIMOTO)。2013年には、宮城県の松島町で「ルツェルン・フェスティヴァル アーク・ノヴァ松島2013」が開催された。
- ・2021年から、Zurich Insurance Group Ltd.の支援を受けて「Music for Future」を企画。世界中の若年層オーケストラ、若手ソリスト、若年層観客への支援を提供している。
- ・2025年6月12日、国際舞台芸術協会 (ISPA) から国際功労賞を受賞。